

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/06 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集 新テストと個別大学の入試改革

東北大学高等教育フォーラムから

新テスト・高大接続 ～大学入試センターから

5月12日、東北大学で「高等教育フォーラム」が行われました。話題は2020年度から導入される「新テスト」で持ちきり。大学入試センターの職員が招かれ、大学関係者、高校関係者からの矢継ぎ早の質問に答えました。まず、新テストの課題として



現行の「大学入試センター試験」について、50万人超の受験生の答案について、極めて短期間かつ公平に採点処理を行うのに、これ以上のシステムはない。センターとしては、この試験のどこに問題があるのかわからないまま、改善のできないまま進んでいるというのが現状である。

新テストへの移行は、大学ではなく文科省が主導になっているそうです。高校教育への影響を主眼に置き、大きな柱として「記述式の導入」「マークシート問題の改善」「英語4技能の外部試験活用」が挙げられます。そして、記述式、マークシート改善の採点に関わる課題として、以下の点を挙げました。

【記述式の採点に関わる課題】

- ・大規模・共通一斉・選抜試験の記述採点を短期間でできるのか？ どの期間が必要なのか？
- ・センターが段階別成績表示を提供する場合、民間はどのように採点業務に関わるのか？
- ・選抜試験として信頼性の高い採点はできるのか？
- ・受験生は自己採点できるのか？
- ・条件付きの短文記述式で、求められる能力が評価できるのか？
- ・どのような内容（素材、文字数、問題数、難易度など）の問題になるのか？
- ・出題方法、試験時間は？ 記述式だけ取り出して行うのか？
- ・段階別成績表示を各大学がどのように活用するのか。

【マークシート問題に関わる課題】

- ・思考力・判断力を一層重視した作問

- ・各教科・科目の特性を踏まえつつ、学習指導要領改訂を見据えた作問
- ・これまでも学習指導要領・教科書準拠の作問であるが、大学教員が大学の視点から問題作成
- ・作問傾向の「固定化」「専門分野」の改善
- ・学習指導要領の趣旨・内容との連携をよりの確に確保 → 高校の授業改善の契機になるような作問

決まっていることは、マークシートと記述形式は併用するが、マークシートでも「思考力」と「判断力」を問う問題に変えていくということ。その後、文科省より、国語と数学の一部で記述式問題が出題されることと、実施期間は現行のセンター試験と同じ1月中旬の2日間とされ（第1回の実施は、2021年1月16日、17日）記述式問題もマークシート問題と同一日程でそれぞれの教科の試験時間内に実施されることが発表されました。（5/16 文科省発表「高大接続改革の進捗状況について」）現在、大学入試センターHPには、これら記述式問題のモデル問題例が公表されています。

東北大学の入試設計 ～常識を超えたAO入試

新テストの下において、東北大学の入試は「一般入試」と「AO入試」の2本柱で実施していくそうです。推薦入試は廃止し、後期日程は経済学部、理学部のみで行います。

特に「AO入試」において、東北大学の入試設計の特徴として 学力を重視した第1志望の受験生のための特別な機会 と位置づけ、意味づけをしています。常識を超える5つの特徴として、



【東北大学 AO 入試 常識を超える5つの特徴】

- ① 入試は思いを伝える場
- ② AO入試は 学力重視
- ③ AO入試の方が難しい
- ④ AO対策は 計画的な勉強
- ⑤ 規格外の オープンキャンパス

この特徴を踏まえ、多くの志望者はAO入試だけでなく一般入試の準備もしているそうです。平成28年度よりその枠を30%まで拡大し、今後も続ける方針です。そして、合格者選抜の諸原則として「公平性」を挙げます。ここでは「公平性＝納得性」特に不合格者がその結果に納得できることを大事にするそうです。

求める学生像 ～アドミッション・ポリシー

東北大学における AO入試の大前提 として、一般入試(センター試験+個別学力検査)の存在 を挙げます。東北大学のAO入試は、センター試験の成績を利用しない現役生を対象としたⅡ期、センター試験の成績を第1次選考で利用するⅢ期があります。センター試験で幅広い基礎学力、個別試験で思考力、表現力を含む高い学力を問いたい。そして重要

な「求める学生像」として、以下の2点を挙げます。

【東北大学が求める学生像】

- ・ 研究者として貢献、豊かな学識とリーダーシップを備える 職業人
- ・ 学問に対する強い好奇心、 高水準の学力

受験生には、幅広い基礎知識、論理的思考、表現力、コミュニケーション能力が問われます。

変わりゆく大学入試 ～すでに出題されている

2014年2月の東京大学理科I類 外国学校卒業学生特別選考（帰国子女の生徒が対象）で以下の問題が出題されました。

【問題 A】 もし、地球が東から西に自転していたとしたら、世界は現状とどのよう
に異なっていたと考えられるか、いくつかの観点から考察せよ。



教科・科目に分けるとしたら、理科・地学でしょうか。この問題がこれまでのものと大きく異なるのは、唯一の答えがないということ。一例として下のような解答が示しますが、これがベストというわけではありません。

- 【解答例】 ①夜が明ける順番が変わるので世界時計が変わる。
②風向きや海流が変わるのでアメリカ大陸を発見するのがコロンブスではない違う国の人になるかも。

このテストの狙いは、自分のもっている知識を使って、いかに論理的に物事を考えて課題を解決していくかという能力を問うこと。暗記中心の勉強ではこのような問題には太刀打ちできません。覚えた知識を活用して、考えたり表現したりするクセを普段からつけておくことが大事です。この入試で、もう1問「問題 B」として以下の問題が出されました。近未来、皆さんが社会で活躍する頃にはこのような状況になっているかもしれません。自身の未来を想像して答えてください。

【問題 B】 自動翻訳技術の進歩により、現在では異なる言語間である程度の読み書きや会話が可能となっている。この技術の行き着く先には、異なる国の人々の間で言語の壁のない社会が実現するものと考えられる。こうした社会の実現に関してあなたの考えを述べよ。



20年後の皆さんのために ～背景は人工知能 AI

4月10日、今年度の本校入学式での保護者説明会で学年主任の佐藤哲浩先生が3年後の大学受験について話されました。

「皆さん（高校1年）の代でセンター試験は廃止され、その次の学年（中学3年）から新テストが始まります。しかし、この3月に行われた大学受験には早くもその変化がうかがわれ、3年後、皆さんが受験する入試に確実に影響があります。」

新テストの導入が決まってしばらく。東京大学を始めとして各大学がそれを念頭において入試問題を変えていくという流れは勢いを増しています。新テスト以前の受験制度で受験する皆さんもこのことに背を向けられない情勢です。

背景にあるのは「AI（人工知能）」です。‘AIが人間の仕事を奪う！’という映画のような話が現実味を帯びてくるという予想があります。海外の研究では28年後の2045年、AIが人間の仕事のおよそ半分を奪うということ。2045年といえば皆さんは40代半ば。かなり先という印象はありますが、皆さんにとって働き盛りの頃。社会のリーダーとして主役を担う時期とあってよいと思います。しかしそのとき、現在の仕事のおよそ半分をAIが担っているという予想。にわかには信じがたいことですが、その予想を真剣に捉えてこれからの教育はどうあるべきか、すなわちどのような力をつければ社会を生き抜けるか。その視点で新学力テストに移行するといわれます。



人間に求められるスキルが変化する。知識の暗記はAIに任せて、人間には思考力や判断力が求められるようになる。AIは、過去の情報を組み合わせたり計算することは得意でも、新しいものを生み出すことは苦手であるそうです。我々人間がAIより優れている能力「思考力」新学力テストのコンセプトは、これを高めようとするものです。これに合わせて大学入試も変化するというわけです。東京大学の入試問題は他の大学の見本であり先駆けです。過去の経緯から、大学入試の変化は急激ではありません。すべてソフトランディング。昨年度より今年度、そして来年度、その波は大きくなってくるものと思われます。

2020年から実施されるこのテストですが、現在の高校生に関係ないという人はもういません。紹介した東京大学の問題は2014年のもの。その他、慶応大、早稲田大にも類似問題は出題されています。皆さんの受験に出題されてもおかしくありません。これからの進路活動において何が重要でどのような準備をしなければならないのか。真剣に考えて下さい。